2025 年度（第 2 次）神戸市外国語大学大学院入学試験
日本アジア言語文化専攻（日本語領域）
解答例・出題意図

設問 I
日本語非母語話者が日本語を用いてコミュニケーションを行う際に，誤解が生じやすいと思われる言語現象の具体例を挙げ，どういった場合に誤解が生じやすいのか，また，なぜその誤解が生じやすいのか，そして，それを解消するためにどういった対策が考えられるのかを論じなさい。

〈出題意図〉
日本語研究の目的の１つに日本語教育への応用がある．
その際，日本語非母語話者の言語使用の観察は欠かせない行為だと言える．
本問題は，受験者が日本語非母語話者の使用実態についてどれだけの知見を有するのか確認するものである．

設問 II
例えば，「書き始める」「話し続ける」「読み終わる」などの複合動詞はふつう辞書に載っていないが，「書き入れる」「話しかける」「読み聞かせる」などの複合動詞は載っている。また，「ぐらっと」「きちっと」「じわっと」などの語は，これらの形で副詞として辞書に載っているが，「ぐらぐらと」「きっちりと」「じんわりと」などの語は，これらの形では載っていない。ただし「ぐらぐら」「きっちり」「じんわり」などの語は辞書にある。このように整理されている理由を説明しなさい。

〈出題意図〉
統語論と語彙論との関係について問う。「統語上の規則に従って話者が随意に作り出しうる形，すなわち生産的な形は辞書に登録されないが，そのような操作に基づかない非生産的な形は辞書に登録される」以上の趣旨が解答できることを求める。

設問 III （1）から（9）は，とある琉球諸語の言語の調査で得られた形容詞語彙のデータである。データを元に，-ha，-sya，-sa は同じ形態素の異形態と分析すべきか，それぞれ別の形態素と分析すべきか答えよ。解答の際，どちらの分析であっても，なぜそのように分析できるのか，データを使って前後の音環境や分布に言及して説明せよ。なお，データはすべて音韻表記であり，/y/ は［j］，/f/ は［ɸ ~ f］，/r/ は［ɾ］である。

2025年度（第2次）神戸市外国語大学大学院入学試験
日本アジア言語文化専攻（日本語領域）
解答例・出題意図

(1)　gumaha「小さい」
(2)　piisya「冷たい」
(3)　byoosa「かゆい」
(4)　keesya「美しい」
(5)　tuusa「遠い」
(6)　ffuha「黒い」
(7)　kipoha「煙たい」
(8)　yaaha「ひもじい」
(9)　nugurisya「怖い」

〈出題意図〉

自身の言語学的な知識を使って分析できること，データに基づいて自身の主張を説明できることの２点を確認するための問題である。日本語の標準語であれば専門知識の学習の際に例として出され，知識で回答できる可能性があるため，分析能力を問うために，受験生に親しみのない言語・方言のデータを用いて出題した。